

# 茶におけるペーパーポットを用いた育苗法

## [研究のねらい]

- 一般の苗木は、本圃定植時に植え傷みが生じ、初期生育が劣る。また、根系の分布域も浅い。

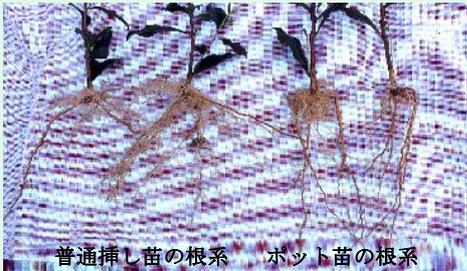
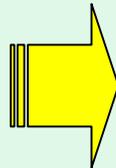


写真1 普通挿しとポット挿し苗の根系の違い



### 初期生育の促進と根系改善を狙い ポット育苗技術の開発

- ☆ 植え傷みが少なく、定植後の活着率が高く、初期生育が優れる
- ☆ 根が鉛直方向に深くまで張り易い

## [研究の成果]

- ・地床にポットを設置した育苗では、50%以上の根がポットの底面以下に伸長し(写真2)、本圃定植時に断根されるが、根の2/3を断根しても普通挿し苗より定植後の生育は優れる(写真3)。
- ・コンテナ内にポットを展開し、コンテナを地表面から離して育苗することにより、全ての根をポット内に保持することが可能となる(写真2)。
- ・挿し木床内で生育した新梢を9月中旬にせん枝処理(図1)することで、分枝数の多い苗木(写真4)を得ることができ、それを本圃に定植することにより、初期生育が促進できる(図2)。

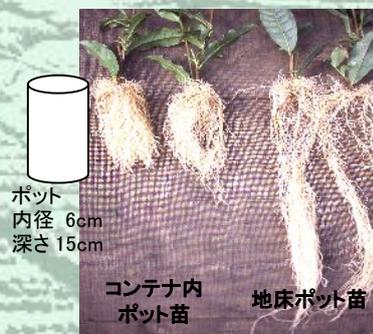


写真2 ポット育苗における根系の違い

ポット苗は、断根されても普通挿し苗より生育は優れる



写真3 普通挿し苗とポット苗の生育の違い

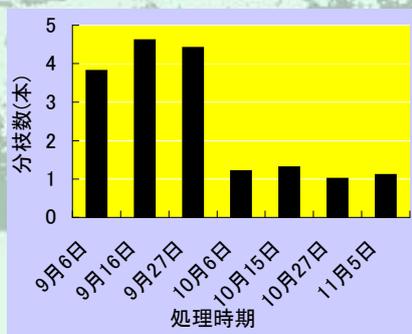


図1 せん枝時期が分枝数増加に及ぼす影響



写真4 分枝数を増加した苗木

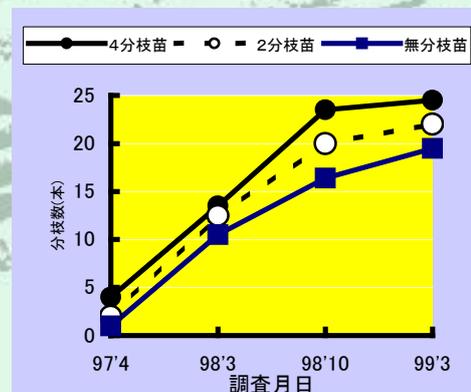


図2 多分枝苗の定植後の生育